

## 東日本大震災被災地支援

### 福島県の病院に医薬品を搬送 (洛和会音羽病院)



●支援物資を積んだ救急車が出発する様子

震災から1週間後の3月18日、寸断されていた交通網が整備され、私たち洛和会音羽病院は、医療物資が不足する福島県会津若松市の竹田総合病院に、医薬品などの緊急支援物資を届けました。

竹田総合病院は、震災の影響が比較的少なく、近隣のほかの病院からも患者様を受け入れたことで医療物資が大幅に不足していました。洛和会

音羽病院は全国の有力民間病院と協力関係にあり、その関係を通じて竹田総合病院から物資の供給要請を受けました。

現地に届けたのは、要請を受けた輸液や生理食塩水などの医薬品のほか、バスタオルやティッシュペーパーなどです。午前10時に山科を出発した大規模災害救助用救急車は、同日の午後7時に現地に到着。竹田総合病院の本田雅人院長に支援物資を手渡ししました。

現地で1泊した搬送担当者は、



●支援物資を手渡ししている様子

「涙ながらに状況を説明されるスタッフの方々の姿を見て、ダメージの大きさがうかがえました。非常事態にもかかわらず、院長をはじめスタッフの方々が総出で歓迎していただき、非常に感銘を受けました」と話しました。

### 救護医も派遣

洛和会音羽病院は、系列の洛和会丸太町病院とともに、京都府医師会「東北地方太平洋沖地震」対策本部からの要請を受け、救護医の派遣にも取り組みました。福島県会津若松市・いわき市内の避難所・救護所に赴き、医療活動に従事しました。

洛和会音羽病院 経営管理部  
経営管理部長 八木利之

## 第23回市民スポーツフェスティバル

### 第58回京都市ソフトボール大会 第21回京都市壮年ソフトボール大会



7月24日、厳しい暑さの中、岩倉東公園グラウンドにて、市ソフトボール大会が開催されました。

一般の部の小野体振チームは、初の市大会への出場を果たしました。大いに健闘しましたが、攻守共に強さを誇る塔南(南区)に1-5で敗れました。

壮年の部の山階南体振チームは、1点差まで詰め寄りしましたが、惜しくも6-7で山ノ内(右京区)に敗れました。来年の活躍が期待されます。

●問合せ先/区まちづくり推進課 (☎592-3088)

参加募集

## 山科の魅力探訪 ~あなたも地域の案内人~

山科の魅力を取りまとめた冊子「京都山科東西南北」をもとに、山科の魅力を、3つのコースに分かれて探訪します。この機会に、山科の魅力をより深く知っていただき、ぜひ、周りの方に山科の魅力を広めてください。

●日時/10月23日(日)午後1時~4時(予定)

探訪コース(各コースとも約5km)  
(たたら遺跡と山科疏水コース)  
京阪四ノ宮駅(集合)→一燈園→母子地藏→安朱橋→後山階陵→山科駅(解散)

(三条街道と芝ノ町遺跡コース)京阪追分駅(集合)→芝ノ町遺跡→四宮地藏(徳林庵)→山階寺跡→五条分れ道標→車石(京津国道記念碑)→地下鉄御陵駅(解散)

(中臣遺跡コース)区役所(集合)→花山稲荷神社→折上稲荷神社→中臣神社→坂上田村麻呂公園→石器発見地→区役所(解散)

●定員/各コース15名(先着順)  
●申込方法/9月20日(火)~10月7日(金)に、区まちづくり推進課まで直接来所してください。  
●費用/200円(保険料及び資料代)

### 第2疏水トンネル試作物

明治44年~45年にかけて建設された第2疏水埋め立て水路の天井部の試作物遺構。アーチ状の鉄筋コンクリート構造物で、建設作業員の製作訓練用として作られました。

### 芝ノ町遺跡

縄文時代、弥生時代、奈良時代にわたる遺跡。縄文土器や有孔磨製石斧(石を磨いて作ら

れた斧)、打製石斧(石を打ち欠いて作られた斧)、須恵器(灰色の硬質土器)、平瓦などが発掘されています。

### 中臣遺跡

山科川と旧安祥寺川に囲まれた新十条通南北の広範囲にわたり、市内でも一番古い時代の石器など、後期旧石器時代から古墳時代にかけての遺構や遺物が発掘されています。

●問合せ先/区まちづくり推進課 (☎592-3088)



みんなで「第2期山科区基本計画」に取り組もう!

第5回

## 区民活動きずなリレー

~音羽川小学校での自転車安全運転教室~

今年4月からスタートした「第2期山科区基本計画」。区民の皆様で作上げられた計画を、皆で実行・実現していきましょう。

今回は計画の5つの基本施策のうち「交通・都市基盤を強化する」に関連して、音羽川学区交通安全対策協議会が実施する自転車安全運転教室をご紹介します。

自転車と歩行者の事故は10年前の約2倍(※)に増えています。その理由として携帯電話を操作しながらの運転や歩道上での危険な運

(※)京都府警ホームページより

転など、交通マナーの悪化が指摘されています。そこで音羽川学区では子どもが自転車の交通ルールとマナーを学べるように、山科警察署の協力のもと毎年小学4年生が自転車運転免許証の取得に挑戦しています。

今年は7月13日に、73名が学科試験と交通ルールや運転技術の実技試験を受けました。成績優良者にはゴールド免許証が交付されるため、皆真剣です。道路を想定したコースでは、道の左側を走っているか、一時停止や安全確認をしているかなど、細かいところまでチェックされます。子どもたちが

らは「思ったより難しかった」、「ジグザグ走行でボールを倒してくやしい」、「やさしく教えてくれてわかりやすかった」、「安全確認を普段もできるようにがんばる」などの感想が出されていました。



●実技試験中

この教室にはコース作成や採点役として、多くの方が協力しています。参加した4年生の保護者は「子どもがこんな乗り方をしていたのかとびっくりした」、「親自身がルールを知らないことを実感した」などの声を上げていました。

また、当初から協力している交通安全女性の会の平松さんは「成果はすぐには表れにくいですが、少しでも意識に残ってほしい」とおっしゃっていました。協議会の澤田会長は、5月に実施した事前学習会の講師も務められましたが、「自転車の交通マナーは子どものうちから学ばないと身に付かない。最近は学校が協力的で、とても助かる」とのことです。

学校の先生だけでなく、地域の大人の方々が子どもを教えるこの様な取組みで、子どもたちは社会性を身に付けていくのでしょうか。山科の未来を担う子どもたちのこのような成長が楽しみです。

●問合せ先/区総務課企画広報担当 (☎592-3066)